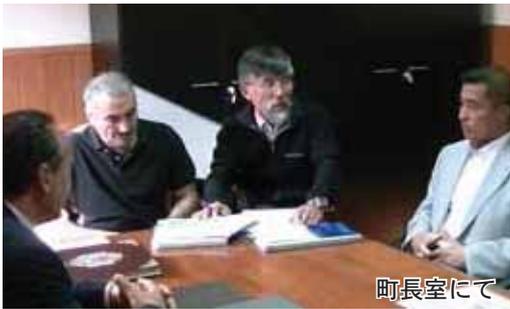


# 巡礼文化で交流を！

昨年11月に、スペイン北西部の町モリナセカ町から、アルフォンソ・アリアス・バルボア町長はじめ関係者が来町し、互いの町の自然や産業、文化についての意見交換や町内の視察を行いました。今回その返礼として、モリナセカ町及びモリナセカ町が属するカステイリャ・イ・レオン州レオン県の県庁などを訪問しました。その内容についてご報告します。

愛南町長 清水雅文

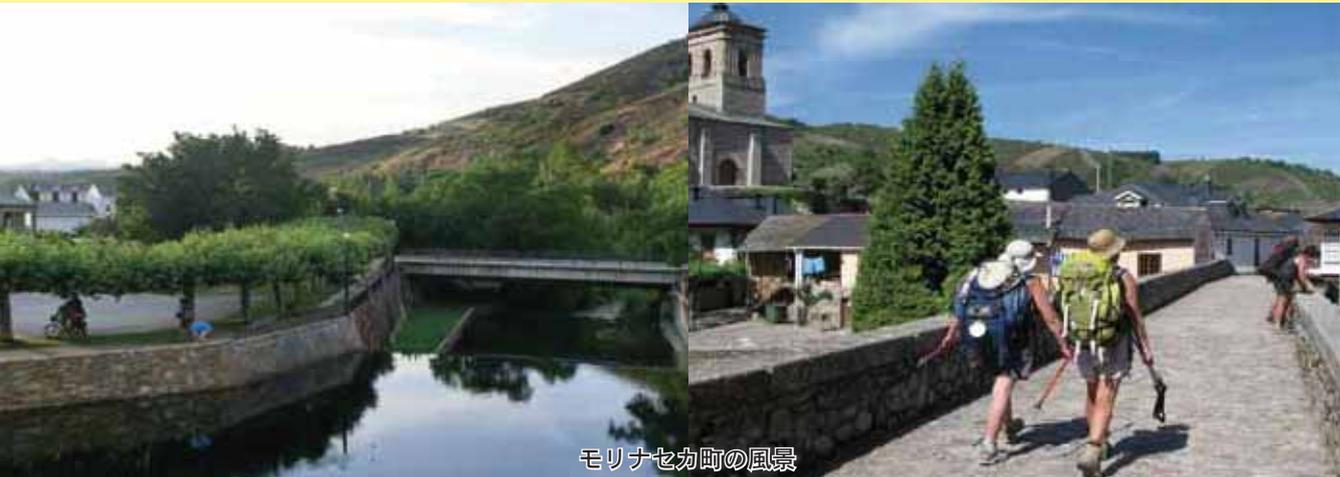
## モリナセカ町での再会



町長室にて

愛南町からモリナセカ町までは、距離にして約10,000km、所要（移動）時間にして約22時間30分かかりました。モリナセカ町は、世界遺産に登録されているサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路が通る、美しい自然に囲まれたのどかな町（人口約1,000人）という印象でした。

私は、まずモリナセカ町役場を訪問し、アリアス町長と久しぶりの再会を果たすとともに、町長室でお互いの町のことや今後の交流のあり方について意見交換を行いました。会談ではアリアス町長から、①文化・経済等



モリナセカ町の風景

## スペイン視察報告

多方面での交流の充実、②世界中の巡礼関係資料を集めた総合巡礼博物館の建設、③愛南町をはじめ四国の真珠の展示会の開催などについて話があり、愛南町としても、今後ともモリナセカ町との交流を続けていき、アリアス町長が考える事業にもぜひ協力したい旨を伝えました。

### 巡礼展示室

次に、モリナセカ町庁舎から歩いて数分の所にある巡礼関係の展示室に向かいました。展示室では、日本の巡礼関係の物が数多く展示されています。このような他国の巡礼関係の物を集めた展示室は珍しく問合せもよくあるそうです。実際、



巡礼展示室にて（アリアス町長は左から3人目）

あるヨーロッパ人がこの展示室を見て、四国の遍路道の存在を知り四国八十八箇所巡りをしたほどです。今後は、総合巡礼博物館の建設に向けて、ブラジル、ノルウエー、スウェーデン等の世界中の巡礼路の関係者の協力を得ることになっていくとのこと。その後、町の文化センターにてアリア

ス町長とともに記者会見に臨み、地元メディア（TV、新聞社及びラジオ）から取材を受けました。なお、日本からは「あいテレビ」が同行取材しており、来年1月に巡礼路を題材とした番組の全国放送版と四国版が放送される予定だそうです。

## 巡礼者専用宿

公式行事が終わったところで、アリアス町長が自ら運転する車でアルベルグ（巡礼者専用宿）「サンタ・マリナ」、ポンフェラーダ城、ラス・メドウラス（古代ローマ帝国の金鉱山跡 世界遺産）、ワイン工場を視察して回りました。特に、無料又は安価な料金（サンタ・マリナで7ユーロ。日本円で約900円）で宿泊できる公営・私営のアルベルグは、巡礼路沿いに点在しており利便性も良く、また巡礼者の費用を抑えることができる非常に優れたシステムです。四国の遍路道沿いにもこのような宿があれば、もっと四国のお遍路さんも増えるのではないのでしょうか。

## レオン県庁にて

レオン県庁では盛大な歓迎を受け、レオン県副知事のハイメ・ゴンサレス・アリアス氏に対応いただきました。副知事からは、「スペインの巡礼路はキリスト教だが、こうして日本の巡礼路の関係者との交流ができ嬉しい」とおっしゃっていました。

続いて、今回の事業の橋渡しをしていただいたNPO法人「遍路とおもてなしのネットワーク」の松岡敬文事務局長から四国のお遍路の紹介を



ゴンサレス副知事（中央）を囲んで



巡礼者専用宿

していただき、アリアス町長から、日本の使節団を受け入れてくれたことに対する謝辞とレオン州特産品の日本でのプロモーションについて述べられました。私からは、このような交流の機会を与えていただいた関係者の方々に改めてお礼を申し上げるとともに、愛南町としても今後交流を深め、協力していきたい旨を話しました。

以上の話を受けて、ゴンサレス副知事は、アリアス町長が今後取り組んでいく総合巡礼博物館が成功するよう、またモリナセカ町と愛南町の交流について、今後ますます発展するように期待しているとおっしゃいました。

このほかバスク州ビルバオ市の都市政策やスペインの太陽光エネルギー政策、カタルーニャ州の水産会社・柑橘農園なども視察しました。

## 結び

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路と四国八十八箇所霊場を結ぶ遍路道。洋の東西を問わずなぜ人々は巡礼路を歩くのでしょうか。幸福を求める人々の思いが宗教的な意味合いを超えて巡礼に駆り立てるのかもしれませんが。それは国や歴史・文化、宗教が違って同じものなのではないかと感じました。その一方で、国際交流は違う価値観との出会いであり、それを鏡として自らを相対的に見ることであります。今回のスペイン視察では、日本にいるときとはまた違った視点でまちづくりの参考となる事例を学ぶことができたと思います。